

終活カウンセラー



手帳は上から上級インストラクターと上級、初級がある。有資格者の大半は初級で、その人数は7000人を超える。



上級検定講習の様子。講師によるセミナーのほか、エンディングノートについてグループディスカッションをするなど、複数のカリキュラムが組まれている。



資格検定講習のほか、宗教家や士業といった終活にまつわる専門家を招いた勉強会も頻繁に開催している。

初級と上級、上級インストラクターに歴然の差

終活カウンセラーは、相続や葬儀の生前準備から老後の暮らし方まで、ライフエンドに関わる心配事の相談に乗る専門家だ。こちらがなにを不安に感じているか分からないような漠然とした状態でも耳を傾け、問題解決の糸口を一緒に探ってくれる。その結果として、必要であれば士業などの専門家を紹介したりもする。

現在、協会代表理事を務める武藤頼胡氏が中心となって2011年7月に発足した資格制度で、類似資格のなかでは抜きん出て有資格者が多い。設立から4年で7000人を超えている。

内訳は9割以上が初級終活

終活系資格の代表格

カウンセラーで、上級、上級インストラクターと等級が上がると人数がけた違いに少なくなっていく。初級は約6時間の講習後に筆記試験を受ければ取得でき、合格率も98%と非常に高い。それに対し、上級は初級合格者のなかで事前審査を通過し、2日間の講習を経て試験を受けるという条件が課せられるため、受験者が一気に絞られるのだ。上級インストラクターは条件がさらに厳しく、有資格者も33人と少ない。等級によって求められる技能には相当な差があるとみていいだろう。

目標は5年後に10万人の有資格者

協会として目指しているのは、終活カウンセラーが一家

に1人いる未来だという。「いままでのようにプロが学ぶだけではなく、あたりまえのように終活を学ぶような世の中をつくらなければと考えております」(協会スタッフ)とのこと、当面の目標として、5年後の有資格者数10万人を掲げる。

それに向けて初級検定をほぼ毎週末実施しており、ときには1000人を超える受験者を募っている。会場は、北は北海道から南は沖縄まで津々浦々だ。平行して勉強会や上位資格向けの講習も増やしている。

今後めまぐるしく変化していくとみられる法律や終活界隈のトレンドについては、有資格者向けの勉強会や、教科書の頻繁な改定で対応していく構えだ。